

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平2-180278

⑤ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成2年(1990)7月13日

A 61 M 35/00
A 45 D 33/34
34/04

J

8068-3B
8068-3B
6917-4C

A 61 M 35/00

Z

審査請求 未請求 請求項の数 13 (全4頁)

⑭ 発明の名称 塗布具と塗布具包装体

⑮ 特 願 平1-282055

⑯ 出 願 平1(1989)10月31日

優先権主張 ⑰ 1988年11月18日 ⑱ 米国(US) ⑲ 272916

⑳ 発 明 者 マイケル エイ ウオ アメリカ合衆国イリノイ州 60521-1501 オーク ブル
ジシツク ツク スイフト ドライブ 1800

㉑ 発 明 者 スティーブン エル アメリカ合衆国イリノイ州 60521-1501 オーク ブル
クリフ ツク スイフト ドライブ 1800

㉒ 出 願 人 ブリステックス イン アメリカ合衆国イリノイ州 オーク ブルツク スイフト
コーポレーテッド ドライブ 1800

㉓ 代 理 人 弁理士 杉村 暁秀 外1名

明 細 書

1. 発明の名称 塗布具と塗布具包装体

2. 特許請求の範囲

1. 一方の端部で開放された本体を有し、他方の端部に底部を有するコップ状容器と、

前記コップの中に堆積している高粘度の製品と、内側面を有するスポンジ状中央セクションを備えるパッドと、

前記内側面に固定されかつ前記製品に対面する非浸透性プラスチックの障壁部材とを、備える塗布具であって、

前記障壁部材は、前記製品が前記パッドを浸すのを防ぎ、かつ前記製品を適用する対象物に係合する滑らかな面を与える、ことを特徴とする塗布具。

2. 前記障壁部材は、前記本体の内面に係合自在である周縁部を有して、前記内面と前記周縁部との間から製品が漏洩するのを阻止する、ことを特徴とする請求項1に記載の塗布具。

3. 薄いシート状のプラスチック材料で形成さ

れていて、前記パッドの外側面に対称的に位置している把手に折り曲げることができる把手と、前記本体の前記開放端を閉止し、かつ前記把手を押圧して前記パッドに押し込む手段とを備える塗布具であって、前記把手は前記パッドに接するように折り曲げることができる、ことを特徴とする請求項2に記載の塗布具。

4. 前記底部は環状隆起部を有し、この環状隆起部は、前記容器の中に突出し、かつ前記製品を収容する空洞部を形成し、更に前記障壁部材に食い込んで、前記製品のための封止を行う、ことを特徴とする請求項1に記載の塗布具。

5. 前記容器の封止された状態での前記パッドは、圧縮されていて、かつ前記障壁部材を押さえて前記環状隆起部に接して保持する、ことを特徴とする請求項4に記載の塗布具。

6. 前記容器の前記本体部は円錐台であって、かつ前記パッドは楔を打ち込んだように前記

本体部に係合している、ことを特徴とする請求項1に記載の塗布具。

7. コップとパッドとを備え、前記コップは軟膏を収容し、前記パッドは前記コップの中に嵌まっていて、前記パッドの前記軟膏に面する側に固定されたプラスチック製の非浸透性ディスクを有して、前記軟膏の前記パッドへの浸透を防ぎ、かつ滑らかな皮膚に係合する軟膏保持面を与える、ことを特徴とする封止された塗布具包装体。
8. 前記ディスクと前記パッドとは、前記コップの内面に接触する同心の周縁を有し、膨張した状態の前記パッドは、前記コップの深さより厚く、圧縮されたときには前記コップの高さに等しく、かつ半径方向に膨張して前記コップの内面と緊密に係合し、更に前記ディスクを押圧して前記コップの底部に接して保持する、ことを特徴とする請求項7に記載の封止された塗布具包装体。
9. 前記パッドは、外側面と、前記パッドの前

記外側面に固定された、蝶形状把手構造体とを有し、更に前記容器の閉止された状態で前記把手構造体は折り曲げられて前記外側面に接している、ことを特徴とする請求項7に記載の封止された塗布具包装体。

10. 前記パッドはポリウレタン発泡体で出来ている、ことを特徴とする請求項7に記載の封止された塗布具包装体。
11. 前記パッドを前記コップの中に圧縮して押し込み、かつ前記コップを閉止する手段を備えている、ことを特徴とする請求項7に記載の封止された塗布具包装体。
12. 前記コップは、開放した頂部と、前記コップの前記頂部に固定された取り外し自在のプラスチック製蓋と、前記パッドに固定されかつ折り曲げられて前記パッドに接する把手とを有する、ことを特徴とする請求項7に記載の封止された塗布具包装体。
13. 非浸透性材料の軟膏受容面と同じ材料の反対面とを有するディスク状部材と、このディ

スク状部材の前記反対面に永久的に張り付けられた圧縮性スポンジ状プラスチック材料とを備える軟膏保持パッド。

3. 発明の詳細な説明

発明の背景

本発明は、塗布具パッドとコップ状容器を合体させた包装体に関する。

この種の以前の包装体では、塗布具は閉固体を要した。塗布具又はパッドは、容器の中に収まり、かつ薬剤を吸収したスポンジ状の素子であった。パッドを指で扱うことは、パッドをコップの中の薬剤に押しつけることを必要とし、そうすることにより、薬剤はパッドとコップの周囲の壁との間でパッドを通して及びパッドの回りから滲み出ることとなる。グリース状薬剤は使用者の指に堆積し、かつ薬剤の多くはパッドに浸透し、かつ再びそれを使用することはできなかった。

従来技術

米国特許第 3,386,793号は液体磨き剤と塗布具パッドと容器の開口端を封止する蓋とを有する容

器を開示している。

米国特許第 3,860,348号は、容器の底部に製品を充填した閉止チューブと、容器の中に収めたスポンジ塗布具と、並びに容器の開口端を封止する蓋とを有する容器を開示している。

米国特許第 4,140,409号はスポンジの中に折り畳める可撓性製品容器を備える装置を開示している。

米国特許第 4,360,020号は製品とスポンジとを備える容器の帯状体を開示し、その各々にはパッドが消毒剤で満たされ、かつ蓋には、外方に突出する折り畳めるつまみ部が備えてあって把手となっている。

米国特許第 4,519,759号は、把手が一緒に折り畳まれた1対のつまみ部で形成され、塗布具パッドはつまみ部の間の蓋に設けてある容器を開示している。米国特許第 4,701,168号は、製品を保持する容器と、開口頂部に接合された取り外し自在の蓋と、その蓋に設けた種々の形状の把手とを開示している。尚、蓋の下面は塗布具に保持され

ている。

発明の概要

本発明の主目的は、コップ状容器とこの容器を閉止するパッドとを備える新規な無菌の組立体を提供することである。この組立体には、不浸透性障壁ディスクが、容器の底部にある薬剤の中に浸漬するためのパッドの塗布具側に設けてあって、それにより、パッドが薬剤を吸収することを防止する。

別の目的は、パッドの頂部に蝶把手を形成することである。蝶把手は頂部の上に折り曲げられ、容器の中でパッドと共に封止される。

別の目的は、新規な密閉封止容器を提供することである。スポンジ状パッドには、容器の底に堆積している典型的軟膏製品に直面する面に非感受性の障壁ディスクが設けてある。障壁ディスクは、容器の中にパッドを圧搾することにより薬剤に浸され、かつ使用者の身体又は製品が磨き剤である場合は他の面に適用するために、そこから引き出される。

で刻み目が入れてある。

各ユニットは、円錐の先端を切った円錐台本体12と、一体に成った底部14とを有するコップ10を備えている。底部の凹んだ中央部は軟膏18又は石油ゲルのような粘度のゲル状の他の製品を収容している。更に、底部には、中央部を囲んだ環状溝16が存在している。

ポリエステルのようなスポンジ状材料のパッド20は本体12の中に嵌めてあり、かつディスクの底部24に適当な接着剤で接着された薄い障壁ディスク22を有している。ディスクは、ポリエチレンのような適当なプラスチックで出来ていて、不浸透性でかつ外側側25は軟膏18に浸漬されている。厚さが2、3 mmのディスクは柔軟で、コップに押し込まれたとき、環状隆起部26の頂部30で環状隆起部26に一致する。ディスクはパッドの周囲32まで延びていて、かつコップの本体部の内側36に接して封止す周縁部34を有している。

パッドのスポンジ状本体38は、コップの本体の内面36の中に緊密に嵌まり、かつその中で圧縮され

別の目的は、容器の内面に緊密に嵌まるスポンジパッドの内側面に上記のような障壁ディスクを設けることである。スポンジはパッドに取り付けてあって、パッドを容器に押圧してディスクを薬剤に浸し、障壁ディスクが容器本体を封止して、石油の粘度と同様な粘度を有する薬剤がパッドと容器本体との間から噴出するのを防止する。

別の目的は、パッドのための新規な把手を提供することである。把手は、パッドの外側面に接着された薄いプラスチックシートで出来ている。シートはパッドの直径で折り曲げられて、つまみ部の半円形部の上に折り曲げられた把手を提供する。

本来的に本発明の及び本発明に包含されるこれらの及び他の目的並びに利点は明細書及び図面からより明らかになる。

発明の詳細

ポリエチレン又は類似のもので出来ている2と番号を付したプラスチック帯状体は連結されたセグメント4を備えている。帯状体は、第2図に示す個々のユニット8に容易に分離できるように6

る。

パッドの上面40は把手構造体44の底面42に接着されている。把手構造体44は、ポリエチレン又は類似の樹脂で出来ているプラスチック材料の中央折り把手45の両側に1対の横方向に延びるつまみ固定部44'を有している。

把手部45は第3図と第4図とに示すように延びており、第5図に示す如くつまみ固定部44'の1個に接するように折られている。

第5図に示すように、把手部45はパッドの頂部に押し込められ、かつ蓋46は把手とつまみの上に重合わされ、かつコップの頂部で外に曲げられたフランジ50の上面47に接着されている。

蓋は、同じくポリエチレン、ポリエステル、又は類似のもので出来ていて、第2図に示すようにフランジ50に蓋を固定する引き剥がし自在の接着剤から引き剥がすのに適している構成になっている。

スポンジ部が第3図に示すように膨張した後、パッドの把手部を上上げる。

塗布具をコップから取り出し、軟化剤又は軟膏を患部に擦る。

底のパッドディスクが非吸収性である限り、軟膏はスポンジ本体に貫入できず、使用者の皮膚の上を容易に滑る。更に、底部ディスクの不浸透性は製品を保守して、平均して約3回の塗布ができる。パッドは特におしめ発疹に適用できる、パッドは発疹の上を滑らかに滑り、それによる傷を最小に抑える。

本構成は、製品を吸収してパッドからしみ出させる従来の塗布具に通常関連する汚さを排除する。

4. 図面の簡単な説明

第1図は相互に連結された軟膏容器の帯状体の底面斜視図；

第2図は、容器を開ける準備として容器から部分的に蓋を分離した状態を示す容器の平面斜視図；

第3図はパッドの把手を伸ばした状態の開口した容器を示す；

第4図は底部に軟膏を付けているパッドの側面図；

第5図は第1図の線5—5での拡大断面図である。

- 2…プラスチック帯状体
- 4…セグメント、
- 6…刻み目
- 8…個々のユニット、
- 10…コップ
- 12…先端を切った円錐台本体
- 14…底部、
- 16…環状溝
- 18…軟膏、
- 20…パッド
- 22…障害ディスク、
- 24…ディスクの底部
- 25…外側、
- 26…環状隆起部
- 30…環状隆起部の頂部
- 32…パッドの周囲、
- 34…周縁部
- 36…内側
- 38…パッドのスポンジ状本体
- 40…パッドの上面
- 42…把手構造体の底面
- 44…把手構造体
- 44'…横方向に延びたつまみ部
- 45…中央折り把手
- 46…蓋、
- 47…フランジの上面

50…フランジ

特許出願人

ブリストックス
インコーポレーテッド

代理人弁理士

杉 村 暁 秀

同 弁理士

杉 村 興 作

